◀ 新書紹介 ▶

現代のエンサイクロペデイア

「都市問題講座」

第 1 巻　経済構造
第 2 巻　住宅・土地・水
第 3 巻　財政と行政

都市問題はいわばデパートである。「都市」を冠したあらゆる問題があり，われわれを待っているからだ。ただそれがデパートと本質的に異なる点は，個別に買ってもたいして役にたたないことにある。一つの問題をとりあげて，そのワク内で解決する。――こうした行為くのり返しが集積するとどんなことになるか，その恐ろしさをこの「講座」は実証的にわれわれに示す。都市問題が総合的な学問であることを，読者は痛感するだろう。

各巻の題名は一見網羅的であるが，市民生活に視点をおいて現代の問題点を鋭く突いている。たとえば第1巻「経済構造」では，都市経済の構造を生産活動・流通機構・消費と多角的なアプローチを試み，問題の所在を明確にしている。ただ，工業立地論，都市の郊外地の章は，すぐれて今日的な問題であるにかかわらず，企業の経済学，農業経営問題への掘下げが不足しているのは遺憾であるといわねばならない。

第2巻は「住宅・土地・水」である。住宅政策を社会保障と関連してとらえ，また社会化住宅を住宅供給政策の基調とするなど，新しい観点からの提案があり，多的面な考察が行なわれている。その基盤となる土地政策は，私有財産権と公共の福祉との関係に対する政策でなければならないとする指摘は別として，土地問題解決のために都市計画をさらに合理的かつ公共の福祉にかなうものにせよという主張のみられることは，従来の都市計画の反省と新らしい都市計画の必要性をついた適切な提言であるといえよう。

こうした都市問題を扱う地方公共団体の実態を明らかにしたのが，第3巻「財政と行政」である。都市の財政問題を大都市・地方中心都市・地方都市に区分して問題点をとりあげているが，共通点は，都市の行政需要増大とかけはなれた現行の都市財政制度の欠陥であり，不当な中央集権的機構である。その解決は，「自治体自身のワクをこえて，都市問題についての政策のあり方，大都市制度そのものの根本が，再検討されなければならないしまたそうすべき時期にきている」<同書93ページ>の一言につきよう。行政については，組織・機能にとどまらず住民の自治をとりあげ，地域民主主義の確立をめざしている。

確かに「講座」は多彩でありわれわれに示唆するところは多いが，不満がないわけではない。それは講座形式にありがちな著者の体臭があまりみられないことであり，また大体において現状分析にとどまって大胆な提案が少ないことや散発的に終っていることである。この意味において，われわれはこの「講座」を都市問題の足場として，それぞれの問題意識のもとに実地にそくして発展させる課題とをになっているといえよう。<伊藤>

<A 5版　有斐閣　第1巻800円　第2巻950円　第3巻830円>